

# 保育所における自己評価表（施設）

作成日	令和6年12月8日	保育園名	社会福祉法人邦順福祉会 サラナ保育園
評価者	(園長) 橋田 みどり (主任保育士) 橋田 浄子 (苦情受付担当者) 山口 美由紀 計3名		
作成者	(園長) 橋田 みどり		
『評価基準』はA・B・Cの3段階です。 A:大変良い B:大体よい C:改善を要する			
本園では、保育の質の向上を図るため、保育所保育指針の改定に基づき、保育計画の展開や施設全体の自己評価をおこない、総合評価に基づき、本園の自己評価を行いましたので、情報を公開いたします。			
*自己評価を基に、総合的な結果を出し、評価の低かった点については改善策を話し合い、共通理解のもと改善に努めます。			
サラナ保育園保育理念 お釈迦様の教えの明るく正しく仲良くを守り、楽しい生活を送り又望ましい未来を作る力培う。			
目指す子ども像 ★約束・ルールを守り、正しい行いができる子ども。 ★心身共に健康で明るい子ども。 ★社会性を養い、まわりの人々と共生（仲よく）出来る子ども。			
保育目標 ・健康、安全など基本的習慣や態度を学ばせ、心身を健康に保つための基礎を育む。 ・他との関わりをもつことで、人に対する愛情や信頼、人権を大切にする心を育み、自主性と協調性を養い、道徳的観念を芽生えさせる。 ・他の命や自然や社会事象に対しての関心を持つ心を育て、それらの対しての豊かな感情や思考力を育てる。 ・生活を送る中で、話す・聞く・相手の話を理解しようとするといった言葉への興味を持つ心を育み、また言葉の豊かさを育む。 ・豊富な体験によって感性と表現力を育み、創造性を豊かにする。			

項目	内 容	総合評価			判断した理由や根拠
理念・ 基本方針	(1) 保育理念が明文化されている	A 100%	B	C	「サラナ保育園の理念と方針」配布とホームページに掲載 入園時説明
	(2) 保育理念に基づく基本方針が明文化されている	A 100%	B	C	「サラナ保育園の理念と方針」配布とホームページに掲載 入園時説明
	(3) 保育理念や基本方針が職員に周知されている	A	B	C	「サラナ保育園の理念と方針」配布とホームページに掲載 配布時に周知
	(4) 保育理念や基本方針が保護者に周知されている	A 100%	B	C	「サラナ保育園の理念と方針」配布とホームページに掲載 配布時に周知
計画の 策定	(1) 計画が策定されているか	A 100%	B	C	長期計画書、事業計画、事業報告書等による
	(2) 計画を踏まえた事業計画が策定されている	A 100%	B	C	長期計画書、事業計画、事業報告書等による
	(3) 事業計画の策定が組織的に行われている	A 100%	B	C	策定し、理事会で意見を聞き反映して決定。全職員に周知
	(4) 事業計画が職員に周知されている	A 100%	B	C	職員会議等で周知
	(5) 事業計画が保護者に周知されている	A 100%	B	C	事業計画に基づいた年間計画等をコドモンで周知
管理者の 責任	(1) 質の向上に意欲を持ち、その取組みに指導力を発揮している	A	B 100%	C	園内研修や外部研修
	(2) 経営や業務の効率化と改善に向けた取組みに指導力を発揮している	A 33%	B 66%	C	職員会議、日常的な点検活動などの様々な活動
経営状況の 把握	(1) 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている	A 33%	B 66%	C	研修会、市役所担当部署、関係機関との情報交換等による

	(2) 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている	A 33%	B 66%	C	会計・予算責任者は園長であり、実務を担当しているため把握している
	(3) 外部監査が実施されている	A	B	C	小規模のため未実施
人事管理の体制	(1) 保育所内の組織について職制、職務分担を明確にしている	A 33%	B 66%	C	職務分担表
	(2) 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている	A 33%	B 66%	C	個別面談を年1回、自己評価を年1回実施
職員の就業状況配慮	(3) 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する構築がされている	A 33%	B 66%	C	就業状況等の希望を申す職員に、個別面談を実施
	(4) 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取組んでいる	A 100%	B	C	誕生日休暇、有給等は希望日に沿って付与している
人材の確保・養成	(1) 定期的に個別の教育や研修計画の評価、見直しを行っている	A	B 100%	C	研修予定、実績により管理、園内研修
	(2) 保育士等が主体的に自己評価に取組み、保育の改善が図られている	A	B 100%	C	年1回の自己評価
安全管理	(1) 緊急時（自己、感染症の発生時など）における利用者の安全確保のための体制が整備されている	A 100%	B	C	緊急時対応マニュアル
	(2) 災害時に対する利用者の安全確保のための体制が整備されている	A 100%	B	C	緊急時対応マニュアル
	(3) 給食室、水回りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている	A 100%	B	C	衛生管理マニュアル、食中毒時マニュアル
	(4) 事故補償（賠償）を行うための方策を講じている	A 100%	B	C	賠償保険加入
	(5) 発生した事故を把握している	A 100%	B	C	事故報告書
項目	内 容	総合評価		判断した理由や根拠	
地域との交	(1) 利用者と地域とのかかわりを広げる働きかけを大切にしている	A 100%	B	C	勤労感謝の日プレゼント訪問、中高生保育体験受入等

連携	(2) 必要な社会資源を明確にしている	A 100%	B	C	関係機関一覧表、関係機関の紹介
	(3) 関係機関等との連携が適切に行われている	A 100%	B	C	専門機関との連携をして助言を受け、保育に反映している（巡回相談等）
	(4) 虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われている子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている	A 100%	B	C	必要な場合、各関係機関と密に連携をとっている
利用者を尊重する姿勢	(1) 子ども一人ひとりを受容し理解を深めて働きかけや援助が行われている	A 100%	B	C	個々の自己評価の総評による判断
	(2) 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている	A 100%	B	C	個々の自己評価の総評による判断
	(3) 子どもや保護者等を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組みを行っている	A 100%	B	C	個々の自己評価の総評による判断
	(4) 子どもや保護者等のプライバシー保護に関する規定やマニュアル等を整備している	A 100%	B	C	個人情報保護規定等
利用者満足の向上に努めている	(1) 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備し、取組みを行っている	A 100%	B	C	写真付きの分かりやすい連絡帳（コドモン）個人面談、アンケート
	(2) 子どもの食生活を充実させるために、家庭との連携している	A 100%	B	C	クッキング、献立表、食事だより、栄養指導
	(3) 子どもの嗜好に応じた給食の提供や、子どもが食事を楽しむことができるような工夫をしている	A 33%	B 66%	C	屋外給食、嗜好調査
	(4) 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている	A 100%	B	C	給食会議
	(5) 沐浴・清拭時の快適性に配慮し、安全に沐浴できる工夫がなされている	A 100%	B	C	個々の自己評価の総評による判断
利用者が意見を述べやすい体制	(1) 施設等の運営に関して保護者等の意見を聞くための取組を行っている	A 100%	B	C	意見箱、アンケート、連絡帳（コドモン）
	(2) 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している	A 100%	B	C	苦情等処理規程整備、おたよりで公表（コドモン）、丁寧な対応

	(3) 利用者からの意見等に対して迅速に対応している	A 100%	B	C	個々の自己評価の総評による判断
	(4) 子どもの発達や育児などについて保護者との共通理解を得るために機会を設けている	A 100%	B	C	個人面談、送迎時の丁寧な対応
質の向上に取り組みが組織的に行われている	(1) 保育サービス等について定期的に評価を行う体制を整備している	A 100%	B	C	自己評価等
	(2) 評価の結果に基づき組織として取組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している	A 100%	B	C	職員会議で自己評価の結果と課題を把握し、改善策を取り組んでいく。
項目	内 容	総合評価		判断した理由や根拠	
保育内容が様々な子どもの発達特性を考慮して展開されているか	(1) 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的、物的慣用が整備されている	A 33%	B 66%	C	個々の自己評価の総評による判断
	(2) 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A 100%	B	C	職員会議、園内研修で、視診、職員の連携
	(3) アレルギー疾患・慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている	A 100%	B	C	アレルギー疾患生活管理指示書
	(4) 子どもが主体的に身近な自然や社会と関わるような人的・物的環境が整備されている	A 33%	B 66%	C	自然散策、園庭の草花、園外保育、犬との触れ合い
	(5) 子どもが言語豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている	A 66%	B 33%	C	個々の自己評価の総評による判断
	(6) 乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている	A 100%	B	C	個々の自己評価の総評による判断
	(7) 1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている	A 33%	B 66%	C	個々の自己評価の総評による判断
	(8) 3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている	A 33%	B 66%	C	個々の自己評価の総評による判断
	(9) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や、保護者とのかかわりに配慮されているか	A 33%	B 66%	C	小学校訪問、地区の小学校の運動会参加

特別な保育への対応や配慮	(1) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A 33%	B 66%	C	個々の自己評価の総評による判断
	(2) 障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A 33%	B 66%	C	個々の自己評価の総評による判断
	(3) 一時預かりは、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A 33%	B 66%	C	1日1名程度、専用の部屋は用いず、通常保育の子どもたちと一緒に生活をする
サービス実施の記録	(1) 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている	A 100%	B	C	保育個別記録、健康診断記録票等
	(2) 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A 100%	B	C	職員会議録
サービス提供の開始	(1) 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している	A 100%	B	C	ホームページ、保育のしおり、コドモン
	(2) サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている	A 100%	B	C	保育園入園希望面談時に重要事項説明書により説明、同意書で確認
サービスの継続性	(1) 施設の変更や家庭への移行などにあたりサービス継続性に配慮した対応を行っている	A 100%	B	C	必要があれば行う。保育所児童保育要録引き継ぎ
利用者に対するサービス実施計画の策定	(1) 保育所の保育方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育課程を編成している	A 33%	B 66%	C	個々の自己評価の総評による判断 重点：保育所保育指針
	(2) 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている	A 100%	B	C	全体会議、自己評価

## サラナ保育園自己評価報告書（令和6年度）

今年度は全職員で、人権や子どもに寄り添った保育を大切に、学び実践してきました。保育所・認定こども園等における人権養護のための『セルフチェックリスト』等使用したワークや各クラスの子どもの姿から見た『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を学び、新たな視点での子どもの姿の発見になり、子どもの関わりや保育につなげていくことができた。子どもに対しては、押し付けの言葉使いや大きな声での指示を出さずに肯定的な言葉がけをするように職員一人ひとりが気を付けるようになっているが、まだ温度差が見られている。子ども主体の保育を他園から学ぶために視察研修へ行った職員からの報告から刺激を受けて自らの保育を見直すよい機会となったが、そこでも、個々の感じ方が異なり保育がうまくいかない事が出てくる等、メリットとデメリットの狭間で悩み多き1年だった。また、保育以外の社会的常識・倫理観の欠如がみられ、改めて保育の世界以外にも保育者自身が興味関心を持って生活を過ごす重要性を感じた。保育者が子どもとの接し方や保育室の環境、保育の内容を工夫するようになり子どもの姿に変化が見られているが、まだ、大人の顔色を伺ったり、一つひとつ「やってもよいか」と確認をしなければ次の行動に移せないという姿が多くみられている。

保育園は多職種で組織構成している。園児一人ひとりの最善の利益を考え、引き続き各職種と連携を取り保育を行っていきたい。保護者アンケートにおいては保育園の取組が十分に伝わっていない部分があり、ご理解いただけますよう次年度は更に学びを深め、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い関わり保護者の皆様と共有していきたいと思います。

\*今後も、自己評価で見つかった課題の解決に向けて努力をしていきます。ご意見などありましたら、お知らせ下さい。